



日本共産党 北区議会議員

のの山けん 区政レポート

https://ken-nonoyama.com/ mail@ken-nonoyama.com

No.686 2023.7.12

日本共産党北区議員団

〒114-8508 王子本町1-15-22

ご相談は
お気軽に **090-2156-3510**

地域開発特別委員会 赤羽駅東口まちづくりについて質疑

再開発の中で赤羽小は

6日に開かれた地域開発特別委員会で、赤羽駅東口周辺まちづくりにおける再開発「第二地区」と赤羽小敷地の一体土地利用の動きを質しました。(のの山けん)

今年1月、市街地再開発事業を検討している「第二地区」準備組合から北区に対し、「区立赤羽小学校敷地との一体的な土地利用に関する検討について」と題する要望書が提出されています。

この真意について区に問うたところ、「要望の際に『赤羽小を現在の場所に存置した上で、よりよい教育環境を確保するため』との説明があった」と答弁がありました。

小学校と再開発ビルを 入替ええ?

確かに現在の区割りでは、小学校の南側に再開発ビルが建つこと

になり、日照などの被害が予想されますが、小学校と再開発ビルの位置を入れ替えれば被害を低減させる効果が期待できるかもしれません。

赤羽小学校 移転の可能性も

一方で要望書には、

明確に赤羽小を現在の位置に残すとは記されておらず、教育環境への影響が避けがたいと判断すれば、小学校を赤羽公園や赤羽公

園の位置に移転し、一体土地利用によって約1・8ヘクタールにも広がる敷地に赤羽公園、赤羽公園、その他周辺公共施設を集約・再編するという可能性も否定できません。ことは民間が主体の市街地再開発事業に、北区が参加していくという話でもあります。区が要請に対し、どのような態度をとるのかが離せません。

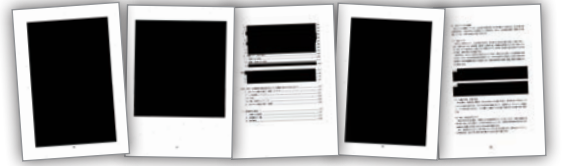


前提くつがえる話 まちづくり懇談会で再度議論を

「第二地区」準備組合からの要望書については、3月の地域開発特別委員会に報告がありましたが、その後のまちづくり協議会幹事会や懇談会では、踏み込んだ話はありませんでした。これまでの前提がくつがえる話でもあり、再度まちづくり懇談会を開き、住民の議論に付す必要があります。(のの山けん)



“黒塗り”資料から 見えるものは？



赤羽駅東口地区のまちづくりにおいて、区が昨年度まで2か年かけて行った周辺公共施設のあり方に関する委託検討調査報告書を情報公開請求したところ、約4割が「黒塗り」で公開されました。

全165ページに及ぶ報告書は、上位計画や施設の現状分析から始まり、最終的には「(仮称)赤羽駅東口周辺地区まちづくり構想の骨子の作成に向けて」と題する提言までまとめています。

肝心な部分は すべて非公開に

報告書では、赤羽小学校、赤羽会館、赤羽公園に加え、赤羽ふれあい館、赤羽保育園、赤羽児童館などの施設が老朽化し、サービス水準を満たしていないとして改築・再編が必要と判定。赤羽区民

事務所も、効率的な運用から改善・再編の検討が必要としています。

しかし、これらの施設をどう再配置するかを記した肝心のシミュレーション部分は全て「黒塗り」となっています。

住民との共有が 報告書の目的

報告書は冒頭、調査の

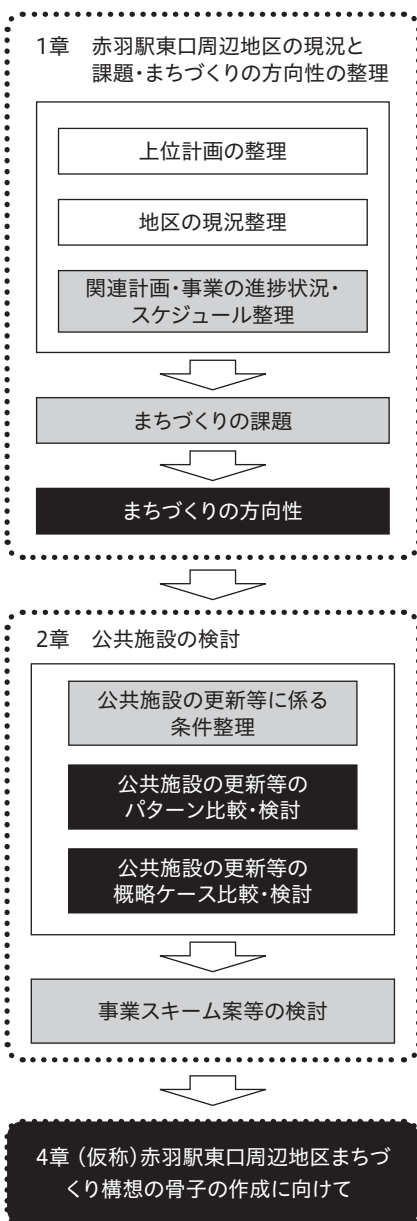
目的を「将来の健全なまちづくりイメージを多面的・多角的に描き、今後の地域住民をはじめとする各関係者と共有するための基礎資料を収集、整理すること」と記しています。住民と共有すべき情報を、区の判断で「黒塗り」にすることに、道理はありません。

(のの山けん)

委託調査報告書の構成

周辺公共施設のあり方に関する委託調査報告書は全4章だて。まちづくりの方向性や施設再編のシミュレーションなど、住民の議論に必要な多くのページが「黒塗り」にされています。

(※表は情報公開請求資料を基に、のの山が作成)



赤羽駅周辺地区まちづくり基本計画策定検討会

希望者全員の傍聴認める

6日の地域開発特別委員会で、18日の第1回赤羽駅周辺地区まちづくり基本計画策定検討会の傍聴を15名に絞らず、希望者全員の傍聴を認めるよう要請。区はこのほど、「会場設営を見直し、応募者全員が傍聴できるようにした」と明らかにしました。(のの山けん)